

三鷹市立第四中学校 令和5年度【数学】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○定期的に小テストを実施し、定着できているか把握することができている。習熟度が遅い生徒に対しては、授業の中での声掛け等配慮することができている。</p> <p>○発展的な問題に対して、自分の考えをまとめたり、ペアで説明しあう機会をつくることで、多面的に吟味し、よりよい解決方法を見出すことができた。</p> <p>○定期考査後の「テスト直し」を行うことで、次の学びに向かう力を高めることができています。</p>	<p>【現状】</p> <p>○三鷹市学力調査では、市の平均正答率が高く、領域では「数と計算」、「変化と関係」、「データの活用」で、問題形式では特に記述式の問題で平均正答率を上回った。</p> <p>○積極的に授業に参加できている生徒が多い</p> <p>【課題】</p> <p>○少人数クラスの中でも、習熟度の開きが大きい。生徒の実態にバランスよく焦点を当て、授業を展開していく必要がある。</p> <p>○基礎的な計算（正負の教や分数、文字を含んだ式など）の定着が十分でない生徒がみられるので、より発展的な内容の学習に入る前に、きめ細かく指導していく必要がある。</p> <p>○数学に対する苦手意識がある生徒もみられるが、日ごろの予習復習等、前向きに取り組んでいるので、その姿勢を認め、継続させることで学ぶ態度の向上を目指していく。</p>	<p>【指導方法の課題】</p> <p>○授業態度や課題での取り組み状況等、意欲的に取り組む生徒が多いが、実際には定着していない部分も多く、取組の方法の改善や要点の整理を行っていく必要がある。</p> <p>【授業改善策】</p> <p>○三鷹「学び」のスタンダードの学習習慣1「先生の話を中心して聞き、大事だと思ったことは、黒板に書かれなくてもノートに書く」、学習習慣6「学習内容の要点を自分自身で考えながら学習に取り組む」の二点について、徹底して指導することで学力の向上を目指す。数学の答えを求めるプロセスについて、どのように考えれば効率的に正しい答えを導けるか、ということを常に考えさせる。これらの学習習慣を身に付けさせることで、様々な問題に対応できるようになり、数学の考える楽しさを実感させることができる。これらの学習習慣を身に付けさせるため、板書においても、適宜メモ書きや要点、自分の考えを書く例を示していき、生徒が自発的にノートを整理できるように指導していく。</p> <p>○言葉で表現したりする活動を継続して行うことで、思考力・判断力・表現力をはぐくみ、記述式問題にも対応した力を付けさせる。</p>
第2学年	<p>○授業で学んだ内容を繰り返し確認したり練習したりできるように、リポート問題集を活用させることができた。教師が定期的に確認をすることで、生徒の理解度を把握することができた。</p> <p>○定期考査後にテスト直しをさせることで、理解が不十分だった箇所を自己分析させ、これからの学習にどのように取り組んでいけばよいかを生徒に考えさせることができた。</p>	<p>【現状】</p> <p>○都の学力調査では、数学の授業の内容が「分かる」「どちらかといえば分かる」と回答した生徒は8割以上いたが、数学の授業が得意かどうかについては「得意」「どちらかといえば得意」と回答した生徒は5割程度だった。</p> <p>○毎回の授業に集中して取り組み、教師の指示に従って学習を進めることができています生徒が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○基本的な計算などの既習事項の定着が不十分な生徒が一部いる。</p> <p>○授業で理解することができていた内容が、時間を空けると分からなくなってしまったり、問い方が変わると混乱してしまったりする生徒が一定数いる。</p>	<p>【指導方法の課題】</p> <p>○基本的な問題の演習に時間がかかり、生徒が自ら課題意識をもって問題に取り組んだり、ねばり強く課題に取り組むことができるような場面設定が不十分である。</p> <p>【授業改善策】</p> <p>○授業の中だけでなく、授業後にも繰り返し問題演習を行う必要があることを伝え、家庭学習の習慣を身につけさせる。</p> <p>○週に1回授業の最初に基本的な計算の小テストを行い、既習事項の定着を図る。</p> <p>○三鷹「学び」のスタンダードの学習習慣4「分からないことはそのままにせず、自分でも調べたり考えたりする」ことの実現のために、さまざまな解法がある問題を授業で取り扱って協働的な学びを推進したり、テスト直しを継続して行うことで自ら調べたり考えたりする機会を確保する。</p>
第3学年	<p>○テキストやリポートを定期的に確認することで、教師が生徒の理解度を把握することができた。</p> <p>○生徒はテスト後に解き直しを行い、間違えた箇所の分析や学習の取り組み方を振り返ることで、改善策を客観的に考える習慣を身に付けた。</p> <p>○章ごとに振り返りを書くことで、章の内容のよさや学習態度について考えることができた。</p>	<p>【現状】</p> <p>○課題に真剣に取り組む。都の学力調査では、約9割の生徒が授業の内容が「分かる・どちらかといえば分かる」と回答し、提出物を出そうとする意識も高い。定期テストの振り返りでは、自己分析をしっかりと書く生徒が多い。</p> <p>○調査(国)の正答率は69%と都平均より15%高く、領域・観点・問題形式すべてにおいて10%以上高かった。</p> <p>【課題】</p> <p>○調査(都)では、学習動機として「楽しい」よりも「将来に役に立つ」の割合が高い。また、自分の考えを説明する項目や工夫する項目が低い。</p> <p>○問題の答えは出すが、条件を変えたらどうなるかなど、その先に新たな問いを探ろうとする習慣が不十分である。</p>	<p>【指導方法の課題】</p> <p>○人の話を聞く意欲はあるが、自分の考えを説明する意欲が低いことから、他者と意見交換をする機会を設ける必要がある。</p> <p>○疑問に思ったことを調べたり自ら工夫する項目が低いことから、自ら問いをもつ意識を養う必要がある。</p> <p>【授業改善策】</p> <p>○三鷹「学び」のスタンダードの学習習慣2「授業中に自分の意見を述べたり、他者の発言を集中して聞いたりする」、6「学習内容の要点を自分自身で考えながら学習に取り組む」の2点について継続的に指導することで学力の向上を目指す。</p> <p>○教師は発展性がある教材を提供し協働的な学びを促すことで、生徒が自分の考えを深め、友達の発想を取り入れたり、新たな問いを探ろうとしたりすることができるようにする。</p> <p>○学習用タブレットで学習内容が生活に関連する例を調べたり、理解を深めるアプリを使用するなどICT機器を活用する。</p> <p>○章ごとに確認テストを行い、教師は理解が不十分な生徒には授業の演習中に個別の支援を行う。</p>